

■喜田貞吉 歴史学者。法隆寺論争で登場、「帝都」はじめ優れた論文多数、部落問題研究でも学者を先駆した。

きたただきち

廃藩置県・・・1871＝ 阿波国那賀郡榎淵村(徳島県小松島市)で、貧農の三男に生まれる。

明治6年政変 1873＝ 2歳：

榎淵小学校、

・・・1880＝ 9歳：

明治14年政変 1881＝10歳：

徳島中学校を経て、

まだ大阪にあった第三高等学校に進学、

帝国憲法発布 1889＝18歳：

英語が苦手だったことから、\_帝国大学文科大学国史学科に入学、

日清戦争始・1894＝23歳：

日清戦争終・1895＝24歳：

白馬会・・・1896＝25歳：

\_卒業して、大学院に進み、指導教授にたしなめられるも、予備校主任・中学校講師等を兼任して糊口を凌ぐ。

子規句歌革新 1898＝27歳：

Bushidou・・・1899＝28歳：

\*岡部精一・堀田璋左右らと日本歴史地理研究会(のち日本歴史地理学会と改称)を組織し、月刊雑誌{歴史地理}を創刊。これに毎号古代史・歴史地理に関する清新卓抜な論文を発表し、健筆の名を謳われる。

田中正造直訴 1901＝30歳：

教科書疑獄・1902＝31歳：

\_文部省図書審査官に任ぜられて定職につき、教科書疑獄事件が起こって国定化されることになり、文部編修として国定教科書国史の編修にあたる。

日露戦争始・1904＝33歳：

日露戦争終・1905＝34歳：

満鉄発足・・・1906＝35歳：

この年、施行された\_国定教科書国史を南北両朝並立の趣旨で記述したが、\*関野貞が「法隆寺非再建論」を発表すると、再建論からはげしい論争を行ない、学史に不朽の名を残す。文部省在任のまま東大講師を兼任、

韓国反日暴動 1907＝36歳：

アヲオ創刊・1908＝37歳：

伊藤博文暗殺 1909＝38歳：

韓国併合・・・1910＝39歳：

京都帝国大学の講師として国史を講じ、\_平城京の研究、法隆寺再建論で文学博士。教師用教科書発行を機に東京高等師範学校で開かれた講習会に講師をつとめたが、小学校校長から疑義を出され、官学に対抗して結束した師範系に攻撃され、\_新聞にも取上げられて議会で問題となり、文部省から休職を命じられ、図書調査委員も論旨免職となる。

大逆事件判決 1911＝40歳：

明治天皇没・1912＝41歳：

大正政変・・・1913＝42歳：

21ヶ条要求・1915＝44歳：

民本主義・・・1916＝45歳：

\_休職が満期になったのを機に、京都帝国大学文科大学専任講師となり、盛んに論文を発表、「帝都」は小冊子ながら古代からの帝都をまとめて要領よく論述した最初の著書として、その価値は高い。

ベル仁条約・1919＝48歳：

大暴落・・・1920＝49歳：

原敬首相暗殺 1921＝50歳：

水平社結成・1922＝51歳：

関東大震災・1923＝52歳：

\_日本学術普及会を組織して個人雑誌{民族と歴史}を創刊、日本古代史・民族に関する論文を次々発表。\_内田銀蔵逝去のあとをおそって京都帝国大学教授となり、国史学講座を担任。「道鏡皇胤論」など勇み足もあつた。

この年、水平社が結成される。\*震災で東京の自宅が崩壊するも、諸虐殺事件に刺激され、水平社運動に理解を示し、「特殊部落研究号」を編集執筆するなど、影の理論的指導者とも見なされ、部落問題研究に取組んだ歴史学者の先駆となる。

護憲三派圧勝 1924＝53歳：

治安維持法・1925＝54歳：

\_日光三百年記念会助成で制作の「近世大名領地図」も大きな業績。退官して東北帝国大学の講師に転じ、

共産党事件・1928＝57歳：

東北地方の古代史に開拓の歩を進め、\_「東北文化研究」を発刊して、東北史研究の成果を発表して行く。

満州事変・・・1931＝60歳：

帝人疑獄事件 1934＝63歳：

日中戦争始・1937＝66歳：

第二次大戦始 1939＝68歳：

\*関野貞の高弟が奈良博の講座で法隆寺非再建論に触れたのを聞くと、立会論争を申し入れ、歴史地理学会主催の公開講座に、老衰と胃病をおして出席、若い学究を懇々と論じて聴衆に感銘、まもなく没した。